

# 農業の新しい技術

No. 670 (平成26年5月)  
分類コード 02-05  
熊本県農林水産部

## 湿地性カラー熊本県育成品種「熊本FC01」 および「熊本FC02」の栽培特性

農業研究センター 農産園芸研究所花き研究室  
担当者：工藤陽史

### 研究のねらい

湧水を多く有する地域特性を活かした栽培が特徴の湿地性カラーは、本県の特産花きであり、全国2位の生産量を有する。産地では、多くの圃場で発生している疫病対策として病気に強い品種への転換を進めてきたが収量は以前より少なく、減少している。そこで、病気に強く多収の2品種を育成している（農業の新しい技術 No622、No623（平成22年5月））。この2品種の速やかな普及を図ることを目的に栽培特性を明らかにする。

### 研究の成果

1. 生育適温域は、「熊本FC01」は「ウェディングマーチ」および「グリーンゴッデス」と比べて広く、「熊本FC02」は「ウェディングマーチ」と比べて高温域で、「グリーンゴッデス」と比べて高温でも生育する（図1）。
2. 高温で発生する軟腐病と低温で発生する根腐れの発生程度は、「熊本FC01」は「ウェディングマーチ」と比べて軟腐病は同程度、根腐れは少なく、「熊本FC02」は「ウェディングマーチ」と比べて軟腐病は少ないが、根腐れは多い（図1）。
3. 根圏は、「ウェディングマーチ」の作土層中心に対して、「熊本FC01」は鋤床の下まで、「熊本FC02」は作土層中心で太い根は鋤床の下に達する（表1、図2）。

以上のことより、「熊本FC01」と「熊本FC02」は既存品種「ウェディングマーチ」などと生育適温域および根の張り方が異なるため、品種の生育適温域と根圏に留意した栽培を行う必要がある。

### 普及上の留意点

1. 「熊本FC01」および「熊本FC02」の栽培管理の詳細については、「湿地性カラー熊本県育成品種「熊本FC01」・「熊本FC02」栽培指針」（「熊本県花き振興推進会議」平成26年3月作成）参照。
2. 品種ごとの生育適温域と軟腐病・根腐れの発生程度および温度域（図1）は、木子および塊茎を用いた発芽・発根および芽・根の生育から導き出した結果である。
3. 湿地性カラーを安定的に生産するためには、地上部の生育量に対応できる活性のある根を有することが必要で、湧水のかけ流しが基本である。
4. 高温で徒長しやすく、低温で根腐れしやすい「熊本FC02」ではハウス内が高昼温・低夜温となりやすい2~4月の換気と水のかけ流しが収量確保のポイントとなる。
5. 湿地性カラーを安定的に生産するための栽培法は、生育適温域に留意する必要があるため、平坦地と高冷地で異なる。

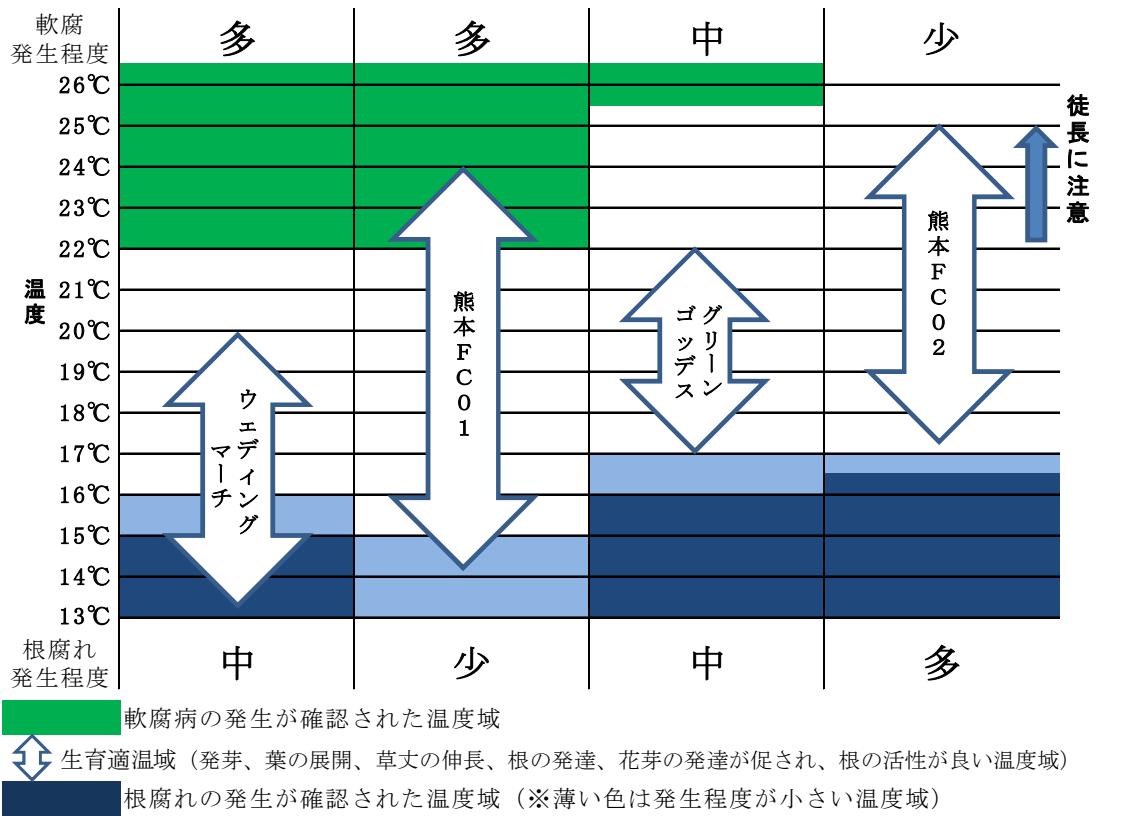


図1 品種ごとの生育適温域と軟腐病・根腐れの発生程度および温度域

表1 品種ごとの根圏 (深さ c m)

	「ウエディングマーチ」	「熊本FC01」	「熊本FC02」
太い根	0～21	0～45	0～48
細根	0～50	0～58	0～58
根量が多い層	0～23	0～38	0～23

作土層 (鋤床の位置) 23 c m

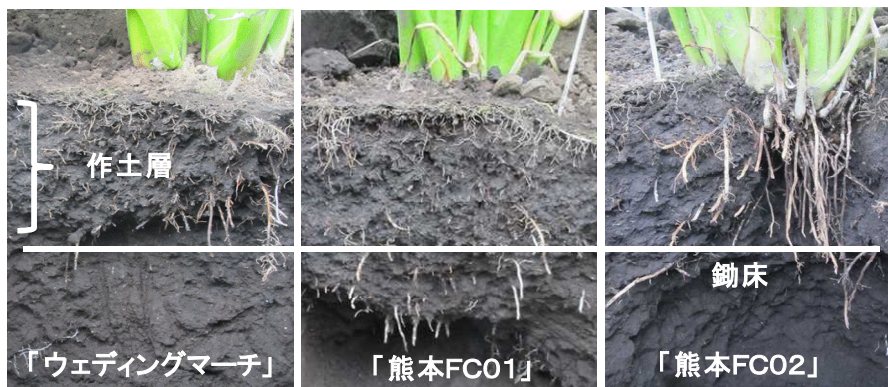


図2 品種ごとの根圏  
(調査日：H25年4月30日、H23年5月26日定植2年株)